

我が街の 記念碑

モニュメント
48

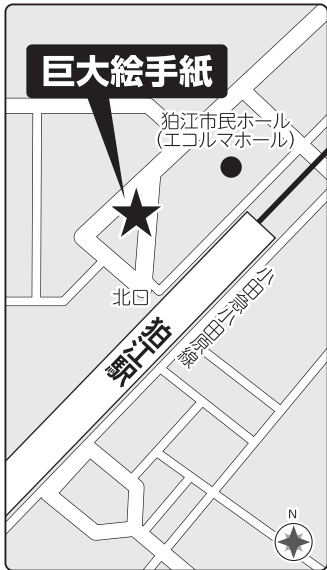
巨大絵手紙

狛江駅北口ロータリー

【狛江・書記・小田井穂通 信員】狛江駅北口ロータリーに設置されている排気塔の側面に、2枚目となる巨大絵手紙が設置され、昨年の11月23日に除幕式が催されました。



排気塔の側面に設置された巨大絵手紙



絵手紙は筆のてっぺんを軽く持ち、筆を垂直に下ろした形で墨を使って描きたい野菜や果物の輪郭を描き、色彩は手早くリズミカルに太鼓を叩くようなリズムで、トントントンと筆を下ろして色付けします。そして差し出す相手に向けたメッセージを書きますが、自分の言葉で想いを話しかけるような言葉づかいにすると良いそうです。

絵手紙があふれる街 狛江から全国に広がった

狛江支部でも支部や主婦の会で絵手紙教室を開催しましたが、参加者の多くが初めて

の筆づかいに悪戦苦闘しながら、思い思いの絵手紙を染しみつつ製作しました。狛江市発祥のきっかけは、1981年に狛江郵便局で前出の小池さんを講師に日本で初めての絵手紙教室が開催されたのが始まり。その後は郵便局や市とのタイアップにより記念絵手紙教室や展覧会などが開催されて、狛江から全国に広がっていきました。

私は今、建て替えられた新しい都営住宅で、この原稿を書いています。狭いながらも新築の香りが漂う多摩ニュータウン諏訪団地です。2021年、年の瀬も押し迫った12月10日に、都営団地移転のため徒歩で2〜3分の



非破壊検査 松山忍

年末の引っ越しで蘇る 荷馬車からの光景

新しい団地へ。約42年ぶりの引っ越しです。私の引っ越しの歴史は、幼少期を除き上京してから葛飾区、大田区そして現在の多摩市と3回の転居、今回で4回目です。市内での移転なので安易に考えていましたが、引っ越しがこれほど骨の折れる事業とは思いませんでした。

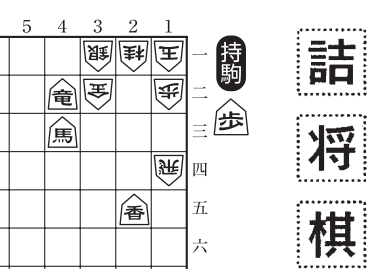
記憶がよみがえります。今は亡き父が教職にあったため、父の転校に伴い7〜8回もの転居をしています。特筆すべきは、1年間に2回もの引っ越しを経験したこと。中学校での2泊3日の修学旅行での事件、出かける家と3日目の帰る家が異なることです。なんとなく笑い話ですね。

当時の一番の印象は、荷物運搬がトラックではなく荷馬車だったこと。荷馬車にタンク等の家財道具を乗せ、私自身も家族と共に荷台の後方に乗せてもらい引っ越し先へ。戦後間もない時期で、荒廃した街を出て広い田園風景の中を馬と一緒に、小川を渡り畦道を通り目的地に到着といったのどかな引っ越し風景です。時間も今と違い、ゆっくり流れていたのでしょう。その時の光景が今も目に焼き付いています。（多摩・稲城）

ブスなど多くの事業を手掛けた阪急東宝グループの創業者である小林一三。岩下清周の誘いで務めていた銀行を辞め、紆余曲折を経て「箕面有馬電気軌道」を託される。梅田から農村地帯を経由する路線開発に周囲は消極的だったが、小林は実際に予定線を歩きながらアイデアを思いつき、沿線を宅地開発して住宅ローンを販売する現在の私鉄経営モデルを創り上げた。

忘れえぬこと

記憶がよみがえります。今は亡き父が教職にあったため、父の転校に伴い7〜8回もの転居をしています。特筆すべきは、1年間に2回もの引っ越しを経験したこと。中学校での2泊3日の修学旅行での事件、出かける家と3日目の帰る家が異なることです。なんとなく笑い話ですね。



詰将棋

チヨット一服(1052)

日本テレビの榎太アナウンサーが3月をもって退社し、大学の研究員になる。よい社会にするため、科学を適切に伝えていくことをめざして研究するそう。アナウンサーになる前は大学院でアサリを研究していた榎さん。『ザ・鉄腕! DASH!!』

では、DASH海岸に生息する水生生物について熱心に解説していた。榎さんはこれからも『パンキシャ!』のキャスターを続けるそうなので、理系分野のニュースを独自の視点で解説してくれることだろう。榎さんの解説で科学的な考え方の大切さが多くの視聴者に伝わってほしい。



犬部!

監督 篠原 哲雄

動物保護に奔走する“犬バカ”たち

獣医学部の学生・花井颯太(林遣都)は幼い頃から動物愛護活動に明け暮れ、一人暮らしのアパートは保護した動物たちで溢れていた。ある日一匹の実験犬を救った彼は、さらに多くの命を救うため動物愛護サークル「犬部」を立ち上げる。同様に大好きな同級生・柴崎涼介(中川大志)らも仲間に加わり、彼らは保護活動に取り組みんでいく。16年後、獣医師となり動物保護に関わってきた颯太が逮捕されてしまふ。



それでも目の前の命を犠牲にすべきではないと意志を貫く颯太のような人々がふえれば、世の中もっと良くなると思うのだが…。